

デジタル庁における課題

- **政策評価・行政事業レビューが、デジタル庁で行われている政策推進プロセスとは独立したプロセスになっていた。**
 - ① 庁内には、評価・点検に関する有識者会議があるだけでなく、進捗管理やレビューなどのプロセスが存在し、重複感
 - ② 重要な計画、概算要求は6月にはほぼ固まっている
 - ③ 政策評価、行政事業レビューの有識者会議は6月以降に本格化し、反映する場所は限定的
- **原課、有識者双方ともに、心理的な負担が発生していた。**
 - ① 原課の心理的な負担を考慮せずにプロセスを立案。事業レビューシートを政策評価にも流用することで、実作業の負担は軽減したが、心理負担は変わらず
 - ② 原課からはどのような観点で有識者から指摘がされるのか、有識者からはどのような発言が期待されるのか、指摘がどう取り扱われるのか、わかりにくかった。これが双方にとって、心理的な負担になっていた。
 - ③ 議論を円滑にするためのフレームワークも示されていなかった。

外部有識者会議の統合

政策評価有識者会議

○ = 座長

- 岩崎 尚子 (早稲田大学電子政府・自治体研究所 教授)
- 神林 龍 (一橋大学経済学研究所 教授)
- 笹島 宗彦 (兵庫県立大学情報科学研究科 教授)
- 佐藤 一郎 (座長 国立情報学研究所 教授)
- 重川 純子 (埼玉大学教育学部 教授)

行政事業レビュー外部有識者会合

○ = とりまとめ

[デジタル庁委嘱]

- 岩崎 尚子 (早稲田大学電子政府・自治体研究所 教授)
- 笹島 宗彦 (兵庫県立大学情報科学研究科 教授)
- 佐藤 一郎 (座長 国立情報学研究所 教授)

[令和4年度行革事務局委嘱]

- 佐藤 主光 (一橋大学国際・公共政策大学院 教授)
- 塚原 月子 (株式会社カレイディスト 代表取締役)
- 水戸 重之 (TMI総合法律事務所パートナー 弁護士)

統合

[新] 政策評価・事業レビュー有識者会議

[審議対象]

- ①通常進捗管理を逸脱し、計画変更が必要なもの
 - ②課題を解決するためにより良い方法があるもの
- 各原課から解決したい課題を提示

[デジタル庁委嘱]

- = 座長はデジタル庁委嘱委員から選出
- 継続評価の観点を踏まえ、毎年度委嘱から3年ごとの更新に

○ = 座長

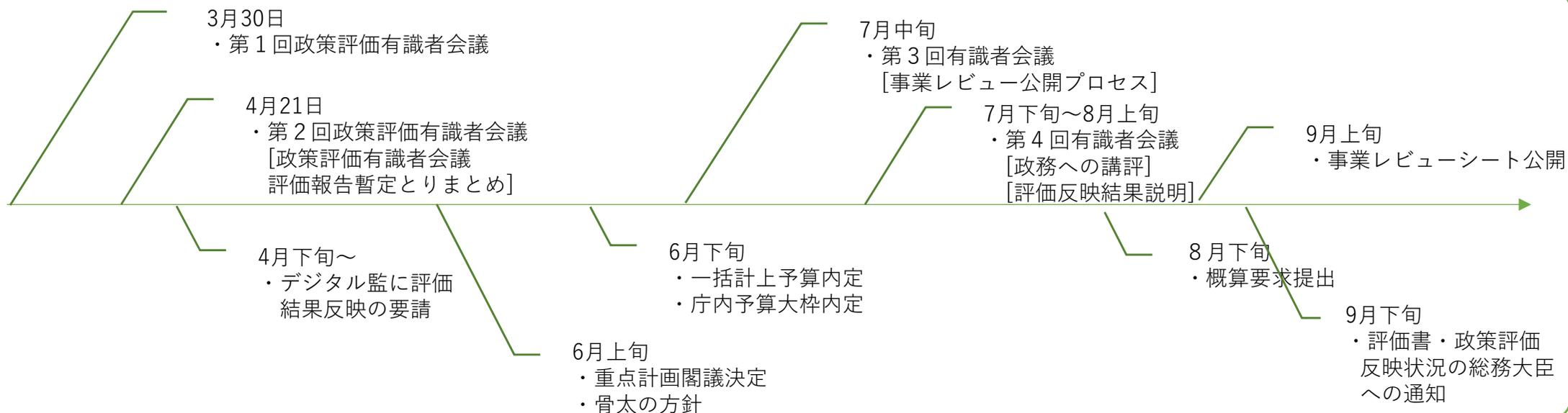
- 岩崎 尚子 (NPO法人国際CIO学会 理事長)
- 笹島 宗彦 (兵庫県立大学情報科学研究科 教授)
- 佐藤 一郎 (座長 国立情報学研究所 教授)

[行革事務局委嘱]

- 毎年度、同じ方が委嘱されるとは限らない。

- 島田 由香 (株式会社YeeY 共同 創業者 代表取締役)
- 水戸 重之 (TMI総合法律事務所パートナー 弁護士)

政策評価と行政事業レビューの前倒し等



○政策評価・行政事業レビュー有識者会議の統合

○計画や予算の調整が比較的可能なスケジュールに前倒し

○評価結果を反映してもらうため、有識者会議座長からデジタル監に要請

○公開プロセスは繁忙期を避けて実施

評価される側、する側が互いにWin-Winに

イベント

○ = 進捗管理, △ = 予算RV, ◇ = 執行RV

軌道を大きく修正モデル

事業計画にやはり無理があった。政策評価・事業レビュー有識者会議の議題にしてもらって、起動修正をお願いしますか。

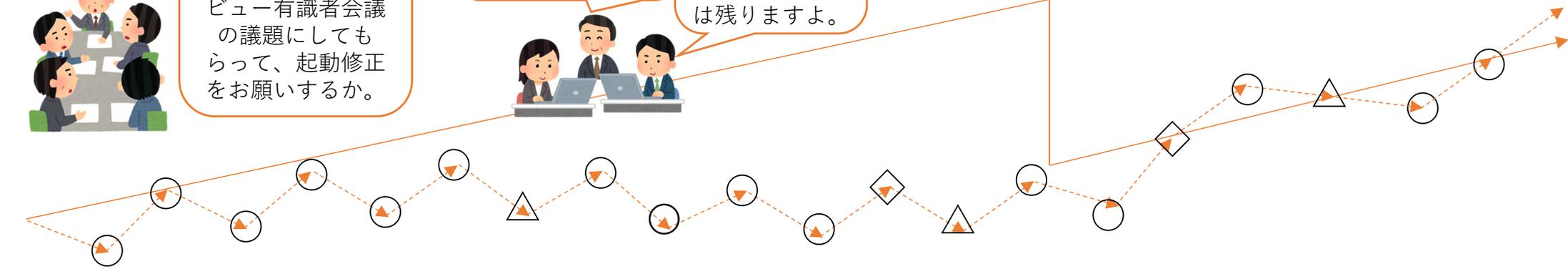
うまくいかない原因は事業期間が短いことですね。期間の見直しをしよう。

期間を優先して、利用者が置き去りですね。期間を満たしても課題は残りますよ。

指摘をいただいて良かった。現実的な期間の見直して、起動修正しよう。

政策目的

▼重点計画改定



原課の心理

予算が足りてなかったんで、そこも指摘してもらえるとありがたいです。

委員の方々と見直しの方向性を調整できるので、ありがたいですね。

では、うちのチームから有識者会議の議題を出しますね。

自分たちから、政策の軌道修正って、言い出しづらいから、ありがたいです。

もともと、政策内容に無理がありましたよ。

有識者の心理

そうそう、重点計画や予算に反映してもらえるとやった甲斐があるよね。

言えば考えてくれるなら、言いやすいですね。

この事業のここを指摘してほしいわね。

議論のフレームワーク

議論をしやすくし、議論の抜け漏れを防ぎ、改善提案をしやすくするため、事業の成功と失敗の分岐点になる可能性のある項目を中心に、議論のフレームワークを用意

項目の分類	発生要因 (例)	改善提案 (例)
政策目的	<ul style="list-style-type: none"> エビデンスの不在 (感覚、思い込み・思い付き、エゴ等) 	<ul style="list-style-type: none"> エビデンスを踏まえた課題の洗い直し
目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 政策目的と目標設定の無相関 過少・過大申告 	<ul style="list-style-type: none"> ロジックモデルの基づく目標設定 実現不可能な目標設定の見直し
アプローチ (政策手段)	<ul style="list-style-type: none"> 課題要因分析が不十分 サクセスストーリーの不在 	<ul style="list-style-type: none"> 課題要因分析の実施とアプローチの変更 目標達成までのストーリーの作成と検証
期日・期間	<ul style="list-style-type: none"> フェージビリティ検証が不十分 作業工程が不明瞭 	<ul style="list-style-type: none"> フェージビリティ検証を実施と期日・期間の見直し 作業工程の具体化
予算・体制	<ul style="list-style-type: none"> 予算・人員が不足 	<ul style="list-style-type: none"> 予算の拡充、体制の強化 施策・事業の優先順位の見直し
ステークホルダー	<ul style="list-style-type: none"> 関係者の洗い出しが不十分 関係者との調整が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 関係者の再洗い出し 関係者との調整の強化
管理プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 管理プロセスの不在 管理プロセスの実施が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 管理プロセスの見直し